

コーディネーターだより

令和6年11月
文責 橋本

《地域のセンター的な役割について②》

前回に続き、地域のセンター的な役割についてお知らせしたいと思います。今回は、相談・情報提供機能についてです。本校では、学校見学や教育相談を随時受け付けています。主な相談内容は、「小学部や中学部への入学や転学を検討しているので、特別支援学校の学習内容や施設、進路などについて知りたい」というものです。今年度はこれまで、電話相談を含めて40件の相談がありました。保護者、本人の他幼稚園・保育所の方、療育機関の方が帯同される場合もあります。具体的には、対象となる学部の一日の流れや行事などを映像で紹介した後、実際に学習の様子を見学してもらっています。「就学先を決定する前にもう一度見てみたい」「特別支援学校に決定したのでスムーズな移行のために授業の一部に参加させてもらえないか」等、複数回来校される場合もあります。校内でも、6月に小学部の6年生が中学部の授業の様子を見学しました。3学期には、授業の一部に参加したり、給食を一緒に食べたりしてスムーズな移行ができるよう支援していこうと思います。

上記の他に小中学校を巡回しての相談を受ける場合があります。今年度は、8件の相談が 있습니다。特別支援学級だけでなく通常学級に在籍する子供たちの支援についての相談もあります。具体的には、授業参観を行い、担任、管理職、コーディネーターに、気づきや関わり方、支援の仕方のアドバイスをします。ケースによっては、複数回訪問して直接対象となる子供に関わるケースもありました。

今回紹介した活動は、外部への支援が中心になりましたが、校内においても、それぞれの学部主事が学部間の連携や支援の仕方のアドバイスなどを行い、一人一人のニーズに応じた適切な支援に努めているところです。

《書籍の紹介》

「手をつなぐ」7月号の中に「障害のある人が使える支援」という本を紹介してありました。どんなことが書いてあって、どのように説明してあるのか興味があり、1冊買ってみました。本の特徴として、見開きの左のページは、「障害者手帳って何ですか?」というような質問と答えが言葉で説明してあります。右側のページは、イラストにして説明してありました。漢字には全てルビがあり、文字や文章をできるだけ少なくしてあることから、見てみようかなと思える本でした。中身の方は、「障害者手帳のこと」「お金のこと」「住まいのこと」等、6つの項目で分かりやすく書かれています。内容は、八代市から出ている「障がい福祉ハンドブック」に書いてあることを簡単な言葉やイラストで説明してあるイメージです。高等部の職業や中学部の職業・家庭の教材としても活用できるそうです。

実物を見られたい方は、橋本までお知らせください。

*障がい・障害の表記は、原文による



手をつなぐ育成会ホームページより